

2月27日（金） Princess Alexandra Hospital、 Australian Red Cross Blood Service

報告：野崎 途也

大槻、野崎の2名は、ノレット先生による案内で Princess Alexandra Hospital と オーストラリア赤十字血液センターの見学を行った。

9:30 Marque hotel 発。タクシーで移動。

10:30 Princess Alexandra Hospital 到着。

公立病院であり、臓器移植で有名な病院であるという。



【Princess Alexandra Hospital】

11:00 Scott Ian 教授による内科学の症例検討会を見学した。研修医と医学部生が約 15 名に指導医約 5 名で、一つの症例提示についてディスカッションを行っていた。症例検討会は、福島医大附属病院の各病棟にあるカンファ室のような部屋で行われており、発表もパワーポイントを使ったものであり、これらの点に関しては福島医大で行われている検討会の光景とさほど変わらなかった。しかし、参加する研修医と医学部生の数が多く、それぞれあまり物怖じせずに発言すること、部屋の片隅にサンドウィッチや飲み物が置いてあり、それぞれが好きだけ取って食べながら、時々笑いが起こるような雰囲気で行われており、日本よりもより積極的である印象を受けた。

11:50 症例検討会終了。タクシーで市街地に移動。

12:30 昼食。その後徒歩で移動。

14:00 Australian Red Cross Blood Service 到着。

ここはクイーンズランド州において献血された血液の検査、品質管理を担当している。日本の赤十字血液センター・献血システムと同じ点としては、

- ・献血バスがある
- ・採血後血液はセンターにただちに集められ、一般的な細菌検査、梅毒、HBV、HCV、HTLV、HIV の検査を行う点

- ・新鮮凍結血漿の使用期限が1年間であること
- ・ウイルス検査においては、NATを用いる点
などがあった。一方、日本と異なる点としては
- ・採血量が470mlであること（日本では200mlあるいは400ml）
- ・献血時に医師の診察は不要であること（日本では必須）
- ・日本におけるNAT（核酸増幅検査）の献体数が20で1単位であるのに対して
オーストラリアでは16で1単位であること（オーストラリアのほうが若干である
が精度は高い）
- ・各血液製剤の使用期限が、血小板が5日間（日本では3日間）、赤血球では42
日間（日本では21日間）と、日本より期限が長いこと
などがあった。

全体としては、福島市にある赤十字血液センターに非常に似たシステムであり、採血量の違いなど、人種（体格）による違いなどはあるにせよ、基本的な点は日本の献血・血液供給システムと同じであるという印象を受けた。



【モーニングカンファレンスの様子】



【PRINCESS ALEXANDRA HOSPITAL】